

る。しかし、次に示す授業における英語の使用状況についてのデータからもうかがわれるように、授業における教師の英語の使用についての改善が求められる。

	英語の使用はほとんどあるいは全くない	英語を用いることはあるが半分またはそれ以下である	半分以上は英語を用いて行っている	大半は英語を用いて行っている
1年	0.0%	71.8%	24.3%	3.9%
2年	0.0%	75.7%	20.8%	3.5%
3年	0.0%	75.6%	20.9%	3.5%

(平成17年3月「英語教育改善実施状況調査」結果 本県分)

英語の使用が「半分またはそれ以下」という割合は、全体の約70%を超えており、しかもその割合は、学年が上がるにつれて増加傾向にある。

そこで、生徒の「聞くこと」の力を更に伸ばすための工夫改善の視点として、まず、教師が授業を英語で展開することにより、「英語を聞く」という習慣を身に付けさせることが大切である。その際、発音や語と語の連結による音変化、語、句、文における強勢・イントネーション・区切りなどの基本的な音声に関する学習を繰り返し行わせるなど、十分な指導を行うことが必要である。また、「生きた英語」に接する最も身近な機会を提供するという点から、説明、質問、指示などのティーチャー・トークやクラスルーム・イングリッシュなどを十分取り入れ、生徒との英語によるコミュニケーションを活発に行うことが大切である。また、英語を聞いてその内容を理解させる活動では、まず概要をとらえることから、次に聞き落としてはならない要点をとらえ、詳細理解へとつなげるようなステップ

を踏んだ指導が求められる。さらに、相手の言うことが聞き取れず、意味が十分に理解できないときなど、そのままに終わらせることなく、コミュニケーションを継続するために、聞き返したり、適切な質問をしたりするなどの方略を身に付けられるよう、その機会を意図的・計画的につくることが大切である。

## (2) 「読むこと」について

### ア 「読むこと」の設問の分析と考察

#### (ア) 「談話構造理解問題」の分析と考察

次の問題は、会話文を読み、そこから抜き取られた1文を文脈から判断して、どこに入るのがふさわしいかを問う設問である。

6 (1) (通過率 48.9%)  
 ○ 次の( )内の文を対話に入れるとき、最も適当な場所をア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。  
 (Oh, you have so many.) [1年]

How many CDs do you have ?  
 ア

イ  
 Well, about one hundred.  
 ウ

エ  
 I have only ten CDs.

この設問においては、約半数の生徒が文全体の内容や対話の流れを読み取ることができず、適切な英文の位置を答えられなかったものと考えられる。

#### (イ) 「言語使用に関する知識理解問題」の分析と考察

この設問は、会話中の空いている部分にふさわしい英文を選ぶ問題である。

⑧ (2) (通過率 41.6%)

- 次の対話が成立するように、( )の中に入る最も適当な英文を、ア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

[2年]

Daisuke: I'm sorry I didn't go to your house.

Lucy: That's OK.

Daisuke: How was the party ?

Lucy: ( )

ア I had a good time.

イ Thank you.

ウ I'm fine.

エ Yes, it was.

ここでは、How was ~? という質問に対するふさわしい応答の定着が図られていないことが分かる。

これらの設問の誤答から、単語そのものの意味をとらえるだけではなく、どのような状況で対話がなされているかを単語や文からイメージし、理解していく学習が必要であると考えられる。

#### イ 「読むこと」の指導方法改善の視点

- 背景的知识等を生かすことから段階的に読ませる指導の工夫

生徒の「読むこと」の力を更に伸ばすための指導方法の工夫改善の視点として、生徒の背景的知识等を活性化させながら読ませる指導の工夫が挙げられる。例えば、Pre-reading 活動として、読む内容に関して生徒のもつ背景的知识をいろいろな情報を与え活性化させたり、書き手の意向等をとらえるための読み取りの視点やキーワードなどを与えたりする。さらに、段階的に読ませるために、In-reading 活動において、自分にとって必要な情報

を探して読ませるスキミングや書かれた内容の大意を把握するために全体をざっと読ませるスキミングなどねらいに応じた読むことの活動に取り組みさせる。そして、Post-reading 活動として、書かれてある内容の大事な部分にアンダーラインを引いてあらすじのまとめや内容の要約をさせたり、段落ごとにキーワードやキーセンテンスからタイトルを付けさせたりするなどの活動が考えられる。

#### (3) 「書くこと」について

ア 「書くこと」の設問の分析と考察

##### (ア) 「文構造理解問題」の分析と考察

この問題は会話文の中にある英文の単語を正しく並べ替える設問である。

⑨ (5) (通過率 9.6%)

- 次の対話を完成させるために、[ ]内の語を並べ替えなさい。

[2年]

A: Did Ken go to Kagoshima ?

B: Yes. He ( )

[ア see            イ there            ウ to

エ his family            オ went]

両学年の設問とも基本的な文型の語順の定着をみるものであるが、極めて低い通過率となっている。この「文構造理解」の設問では、クラスルーム・イングリッシュ等で頻繁に使用されていると考えられる他の英文でも定着が図られていない結果となっている。このことは、英文の構造を十分理解しないまま、単に聞いたり、読んだりするだけにとどまってしまう、自分の言葉として表現するなど活用できるまでに至っていないということが考えられる。

(イ) 「条件指定問題」の分析と考察

この問題は、指定された内容に基づいて英文を書かせる設問である。

○ 下のメモは、新しく来た ALT のエミリーにインタビューをしたものです。インタビューをした内容(1)～(3)をもとに、エミリーを紹介する英文を書きなさい。(すべて英語で書き、ピリオドやコンマなどの符号や大文字、小文字の使い方に注意して書くこと)

[2年]

[メモ]  
エミリーへのインタビュー  
(1) 日本に来たのはいつ?  
→ 日本へ3週間前に来ました。  
(2) 特技は?  
→ ピアノを弾くことができる。  
(3) やってみたいことは?  
→ 日本語を勉強したい。

Emily is our new ALT.  
(1) \_\_\_\_\_  
(2) \_\_\_\_\_  
(3) \_\_\_\_\_

設問番号	通過率	無答率
10 (1)	9.2%	28.5%
10 (2)	28.3%	34.9%
10 (3)	12.2%	40.5%

特に多かった誤答として、(1)では前置詞の誤りや複数表記の誤り、(3)では三人称単数現在形のsの欠落や動詞の誤りが多く見られた。前回の類似問題においても通過率は低く、無答率も前回同様高い。このことから、指定した内容や様々な話題について英文を書く機会を授業内外で設け、意欲的に英語で表現する機会を確保することの必要性がうかがわれる。

イ 「書くこと」の指導方法改善の視点

「書くこと」の領域における指導については、当センターの Web ページ「指導資料」の[英語第59号 \(通巻第1442号\)](#) 及び [第60号 \(通巻第1484号\)](#) で提案しているので、

アクセスして参照されたい。

ここでは「書くこと」の指導方法改善について、実践例を基に授業と授業外の視点から述べることにする。(鹿児島市立和田中学校 内村健二教諭、喜界町立第二中学校 平奈都美教諭の実践を基に作成)

○ 書くことの活動内容の工夫

「書くこと」の活動を次の2点からとらえ、学習させる例である。まず、言語材料の理解・定着を目指す活動では、生徒のつまづきを把握し、繰り返し練習するドリル学習を取り入れる。そして、自らの考え等をまとまりのある文で表現する活動では、自ら書いて表現したいという意欲を喚起し、書く過程を大切にしたい。

\*プロセスライティングの考え方を取り入れる。このように、その二つの活動をバランスよく学習させるようにする。

(\*プロセスライティング:ライティングの過程を重視して、そのすべての段階で学習者が仲間や教師と相談しながら随時計画を修正し、改善を加えて文章を完成させる指導法)

○ 書くことの指導過程の工夫

生徒が書く活動に意欲的に取り組むための指導過程として、次のような例が考えられる。

過程	指導の視点	教師のかかわり
導入	目標の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物、生徒と関連のある話題の提示など必然性、具体性、自己関連性をもたせる。</li> <li>学習の流れと到達目標までの過程をとらえさせる。</li> </ul>
展開	内容の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>トピックに基づいた情報収集から書きたいことを整理して英文を完成させるまで段階的に取り組ませる。</li> <li>ステップを設け、自</li> </ul>

展開	形態の工夫	分の到達度を確認させながら取り組ませる。 ・ 友達同士で英文を確認させ、教師は表現方法についてアドバイスを与えたり、間違いの修正を行ったりする。
	評価の工夫	・ 生徒の取組に対し、達成感や励ましにつながるコメントを与え、意欲を高めさせる。

そして、「書くこと」の力を定着させるためには、「聞くこと」や「話すこと」に重点を置いた指導の中でも、聞いたり話したりした内容を書き取らせる活動を意図的・計画的に位置付けるなどの指導過程を取り入れることが必要である。

○ 生徒のつまずきを踏まえた家庭学習

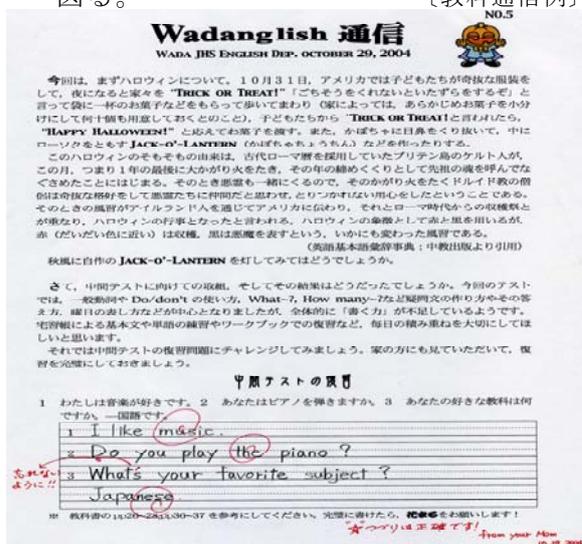
授業において生徒の理解が不十分である文型や基本語句などについて、家庭で繰り返し練習できるよう、プリントを作成する。また、生徒自身がどのようなところでつまずいているかを把握できるよう、文法事項等の誤答内容を一覧にした個別記録カードを作成し、それに基づき生徒が家庭学習を進められるようにする。（「O」は正答、\*印は誤り）

記録カード		Name[ ]				
誤り	動詞の使い方	時 制		語 順		
7-1	①	○	①	○	①	○
	②	○	②	*study の過去形	②	○
	③	*三人称の s	③	○	③	*疑問文
	④	○	④	○	④	○
	⑤	○	⑤	*enjoy の過去形	⑤	○
7-2						

○ 家庭との連携

- ・ 授業での学習の様子を家庭に定期的に知らせ、英語に関しての話題となるようなトピックを提供する。
- ・ 基礎的・基本的な内容について確認できるようにし、家庭学習で行うべきことを知らせる。

以上のような点に留意し、教科通信等を作成することにより、家庭との連携を図る。 [教科通信例]



○ 教職員間の連携

進捗の確認や定期テスト作成の打合せにとどまらず、生徒の実態やそれに基づく指導方法の改善策、評価の在り方など指導方法改善に視点を当てる教科部会を実施する。その際、実践内容についての共通理解を図り、学校や学年で一体となって進める。

このように、授業改善の視点だけでなく、授業を支える家庭学習の充実や英語科職員の共通実践といった教科マネジメントの視点を生かした指導の工夫がより一層求められる。

これまで各領域ごとに改善策を述べてきたが、今後、4領域の言語活動を有機的に関連付け、基礎的・基本的な内容の定着を図る指導を繰り返し、継続して行っていくことが更に重要である。この調査結果を基に、基礎・基本の定着へ向けた指導方法の改善に取り組むことが望まれる。（教科教育研修課）